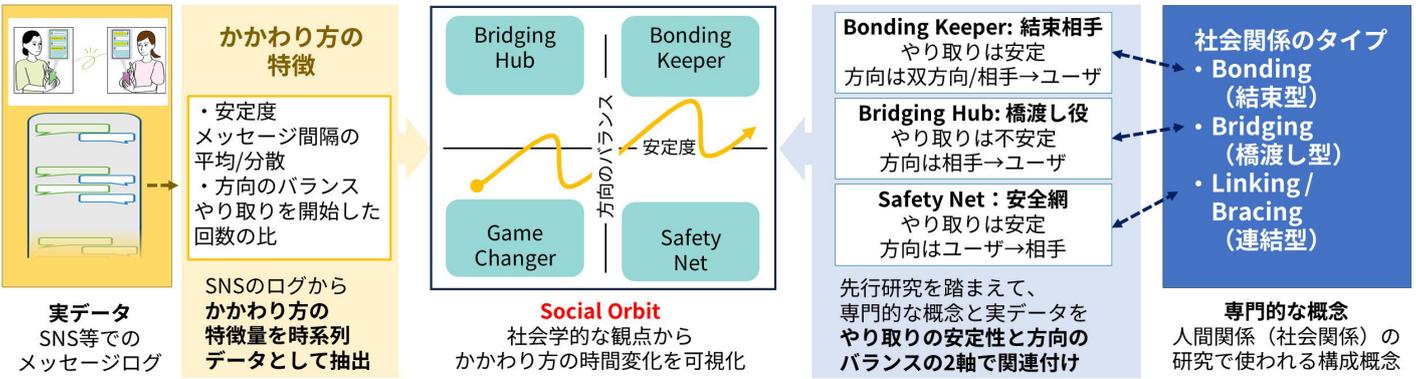


<p>どんな研究</p>	<p>自分を取り巻く人間関係を非専門家がとらえることは簡単ではありません。この研究では、SNSログを人間関係に関する専門的知見に基づき解析することで、ユーザを取り巻く関係性や親密度などの人間関係の変化を簡便に「軌跡」として可視化する方法「Social Orbit」をご紹介します。</p>
<p>どこが凄い</p>	<p>社会関係にかかわる専門的な概念（人間関係のタイプなど）をSNSログの特徴量（メッセージの間隔や頻度など）に基づいてとらえ、特徴量の変化をもとに、ある人を取り巻く人間関係の変化（疎遠化・親密化など）を2次元空間上に描かれる軌跡として可視化する方法を構築しました。</p>
<p>めざす未来</p>	<p>家族や子育て、地域のつながりなど、様々な場面での人間関係を直感的に把握することは、その維持や改善につながる行動の選択肢を考える基盤になります。VUCA時代ともいわれる複雑さが増す社会の様々な場面で、各人が望ましい行動変容を自ら促進できる社会をめざします。</p>

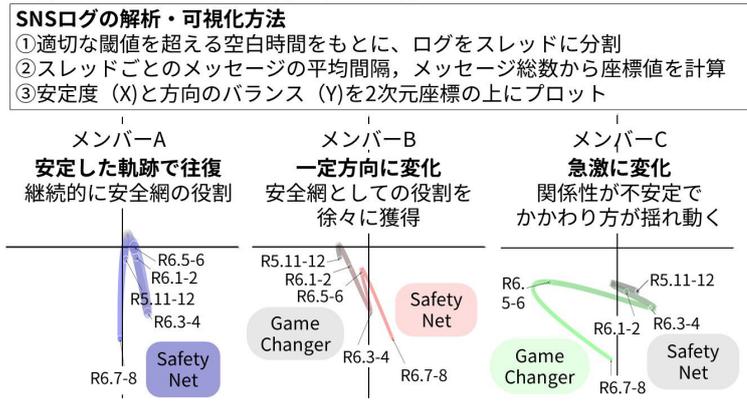
人間関係の時間変化の可視化手法

- SNSのメッセージログ等から、自分の周りの**人間関係の時間変化を可視化**します
- 専門的な文脈を考慮したやりとりの方向と安定性の2軸から構成される空間上でデータを可視化することで、専門的な議論になじみのない**一般の人でもかかわり方の変化を適切にとらえることができます**



人間関係の変化を直感的に理解可能に

- SNSのログから、ユーザ視点での他者との関係変化を示す曲線「**Social Orbit (社会関係性軌跡)**」を生成し、**個人ごとのかかわり方変化の特徴を直感的に理解できるように可視化**します
- あるグループの1年間の活動を可視化した結果、**複数の変化パターン**が表出し、Social Orbitの形状の違いから各メンバーのかかわり方の違いが明らかになりました

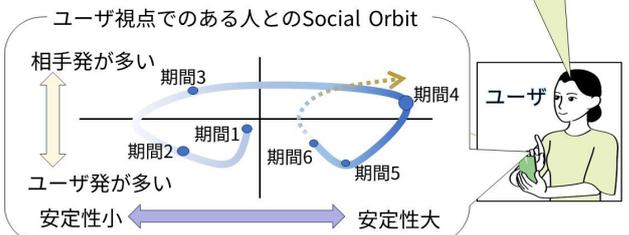


Social Orbit からの関係変化の気づきと行動変容

- 実場面での検討では、自分では気づきにくい他者とのかかわり方（例：働きかけの方向の偏り）に気づくことで、**自身の行動を見直す効果**を確認しました
- 人間関係の維持や自身のコミュニケーション傾向の理解を補助し、より良い関係構築を可能にします

Social Orbitからのかかわり方振り返りのイメージ

Bさんとは前よりもかなりやり取りが安定して親しくなった（期間3→期間4で軌跡が右方向に移動し安定度が向上）。でも、直近は自分からの連絡が多くなっているみたいだから（期間5・6で軌跡が下方向に移動し、バランス変化）、もう少し連絡のバランスを見直そうかな（上方向に向かう点線矢印）。



※可視化データの真正性をWeb3技術で保証・特徴量を安全に共有すれば、ユーザの仮想・実世界にまたがる社会的アイデンティティ証明にも応用可能

関連文献

[1] 荒川あゆみ, 田中利枝, 坂倉杏介, 渡邊淳司, 丸谷和史, “第三者が子育てに関わる「チーム家族」の実践とその社会関係性可視化の検討,” 第29回情報処理学会シンポジウム「インタラクション2025」, 2025.

連絡先

丸谷 和史 (Kazushi Maruya) 人間情報研究部 感覚表現研究グループ